

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート  新規  継続  
( 事業 委託 補助用 )

## I 基本事項

整理番号 1339

事業名	南淡公民館活動事業		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	教育部	生涯学習文化振興課		款	教育費・10款
電話	0799 - 50 - 3048			項	社会教育費・5項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	目	公民館費・2目	社会教育法
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務				
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	人づくり 知恵あふれ 郷土愛が満ちるまちづくり			
	まちづくりの目標	情熱と生きる喜びあふれるまち【生きがい】			
	施策目標	仲間との絆を深め、情緒やセンスを磨く、芸術文化活動・スポーツ活動を盛んにする			
該当する事業について「 」を選択		施策的	業務委託	負担金補助	

## II Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	対象(誰を・どのような状況の人に)	市民		対象人数(人)	53,374
	目的	<p>意図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入)</p> <p>実生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって住民の教養の向上、健康増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。</p>			
	実施内容	(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか)			
	背景	(どのような現状・課題・要望によって事業が実施されるに至ったか、他の自治体の動向など)			
	事業実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市直営	<input type="checkbox"/> 民間・その他 ( )		
事業期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度	~	平成 年度	<input checked="" type="checkbox"/> 設定なし	
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯)				
	<input type="checkbox"/> 旧緑町 <input type="checkbox"/> 旧西淡町 <input type="checkbox"/> 旧三原町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から 旧町で異なった講師料の統一を図った。				

## Ⅲ Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

「実施内容」により得られる活動結果指標 (アウトプット)	指標名	公民館講座開設数	指標単位		
			講座数		
	指標説明 (指標算出方法等)	年間回数が5回以上の講座を対象とした開講を表す指標			
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	目標値	3	3	3	3
	実績値	3	3	3	
達成度 (%)	100.0	100.0	100.0	-	
目標値設定の考え方	実際に募集した講座数を目標として設定				
アウトプットにより達成される「目的」に対する事業の成果指標 (アウトカム)	指標名	講座受講者数	指標単位		
			人		
	指標説明 (指標算出方法等)	年間回数が5回以上の講座を対象とした募集定員に対する受講者率を表す指標			
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	目標値	75	75	75	75
	実績値	64	77	63	
達成度 (%)	85.3	102.7	84.0	-	
目標値設定の考え方	開講講座の募集定員を目標値として設定				
資源配分 (インプット)		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	直接事業費 (千円)	1,085	1,131	866	851
	各種講座謝金等	705	701	576	576
	IT講座			50	50
	地区文化展・芸能祭	220	235	100	80
	文化祭等(打合せ、準備、委員会)	5	5	10	15
	文化展案内チラシ印刷代	31	69	60	60
	公民館講座募集新聞折込代	124	121	70	70
	財源 (千円)				
	国				
	県				
	起債				
	その他	192	231	189	252
	一般財源[A]	893	900	677	599
	人件費(正規職員)[B] (千円)	0	0	0	0
平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1	
事業量1(事業に要した日数)					
事業量2(事業に要した人数)					
年間経費([A]+[B])	893	900	677	599	
「目的」対象人数1人当り経費 (千円)	0.0	0.0	0.0	0.0	
受益者人数(77)1人当り経費(千円)	11.6	11.7	8.8	7.8	
経費に関する補足説明					

## IV Check (事業の自己評価・一次評価)

達成度	活動結果指標目標達成度	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
		%	100.0	100.0	100.0	-	
(アウトプットの達成度分析、問題点・課題などを記入。) 社会教育施設である為、目標数値が定めにくい面もあるが、現在募集している3講座については、1講座10名以上の応募がありほぼ目的を達成していると思われる。							自己評価 (5点評価)
							3
有効性	成果指標目標達成度	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
		%	85.3	102.7	84.0	-	
	成果向上率	%	-	20.3	18.2	-	
(事業実施による目的に対しての有効性分析、問題点・課題などを記入。) 公民館講座を開設することで、サークル活動等の自主的活動が43団体と定着し地域住民の参加する場が多くなっている。							自己評価 (5点評価)
							4
効率性	活動実績1単位当り経費	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
		千円	297.7	300.0	225.7	-	
	効率性増減率	%	-	0.8	24.8	-	
(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) 住民ニーズにあった講座を開設し受講料で講師料を賄うことができる様に創意工夫する必要がある。							自己評価 (5点評価)
							3
必要性	公共性の高低	<input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低					
	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 地域社会のニーズに応えての人づくり、ふるさとづくりについて、公民館こそが、その拠点となって推進することが重要である。地域の特性に応え、心の豊かさや人間として生きる喜び、楽しさ等生活の充実を目指す上からも、今後、事業を継続していく必要性があると思われる。						
							4
総合評価	自己評価をふまえた現状分析		<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>評価グラフ</p> </div>				
	現在、公民館活動として公開講座は、3講座であるが、サークル活動として、43団体の住民が知的な余暇を楽しんでる。社会的背景においては、余暇時間を有効に活用し、スポーツクラブや文化サークルなどの活動へ参加したいと思っている市民の意向も高くなっている。そこで、講座等の専門分野の講師を招き受講することで、レベルの高い芸術文化に触れることができ、多くの市民が芸術文化に親しみ、交流が生まれてくる。						

## V Action&amp;Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し
	<p>今後も各館の特性を活かした講座を重視し、継続していくとともに人数の少ない講座は、市一箇所で行う工夫が必要である。</p>	同左
(現状維持以外の改善方法)		
改善によって期待される効果	効果(アウトカム)面	効果(アウトカム)面
	コスト面	コスト面
(現状維持の場合も記入)	<b>仮に</b> 事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面) 各館の講座で重複しているものを統廃合すべきであるが、同じ講座でも受講生の熟度が異なるため、むやみに統廃合すべきではなく、各館の調整を図り熟度による講座開設も必要である。	